




人の世に熱あれ、人間に光あれ

2023年度

部落解放祈りの日運動パンフレット



部落解放祈りの日：2023年7月9日（日）

- 日本基督教団は、1975年7月14～15日開催の常議員会にて部落差別問題特別委員会の設置を決議し、教団としての部落解放の働きを正式に開始いたしました。この出発点を覚え、7月第2主日を「部落解放祈りの日」とすることを、教団部落解放センターは提案しております。多くの教会・伝道所がこの祈りの運動に参加されますようお願いいたします。
- 部落解放が教会・伝道所の祈りの課題とされ、部落差別の問題に肉薄する説教・聖書研究がなされ、部落差別について学びの時がもたれることを願っております。
- これまで「部落解放祈りの日」礼拝を実施された教会・伝道所で実際に用いられたものを中心に、祈りの言葉や聖書箇所、讃美歌の例を紹介いたします。参考にさせていただければ幸いです。あくまで各教会・伝道所の式文やプログラムを尊重すべきだと考えますので、式文の例示はいたしません。
- 各教会・伝道所で作られた独自の祈りやリタニーを、ぜひ教団部落解放センターにお教えください。この運動を豊かなものとするために、「アンケート集計報告書」や「運動パンフレット」などで分かち合いたいと思います。
- 「アンケート集計報告書」を用いたアンケートにご協力ください。
- 部落解放センターの働きに関わる費用は全て皆様からお願いしています献金によっています。
- どうか「祈り」と共に献金のお支えをよろしくお願いいたします。

日本基督教団 部落解放方針

2000年7月12日制定

『教憲教規および諸規則』p. 196~201 から一部抜粋

はじめに

私たちの教会は日本の社会に建てられています、そこには様々な差別や抑圧が存在しています。部落差別はその一つです。生まれ(血筋・家柄, 出身地・居住地)によって人間を賤しめ、排除するものです。このために多数の人々が、日本の歴史を通し、全国各地で、社会の諸領域で、また、生活の様々な面で辛酸をなめさせられてきました。そこで1922年、被差別部落の人々は、全国水平社を創立し、自らの力で解放を実現していくために初めての全国的、組織的な部落解放運動を開始しました。この闘いは時代を越えて受け継がれ、今日では部落外の人々も多数加わって日本の各地、各領域で展開されています。日本基督教団が部落差別について組織的な取り組みを開始したのは、1975年のことです。1981年には、取り組みを日常化し、強化するために新たに部落解放センターを起こしました。1995年には部落解放センターを教憲・教規に明文化して教団の宣教機関として位置づけました。

この方針は以上のような教団内外の経過の中で、日本基督教団として更に着実に部落差別問題に取り組んでいくために、その現状認識と目標、姿勢と方策を明らかにするものです。具体的な作成目的は次の通りです。—中略—

II 部落解放方針……<差別-被差別>関係の変革のための姿勢

- 1 個人のあり方を大切にする
- 2 部落差別を生み出さない社会構造を求めていく
- 3 部落解放を推進する教会になる

部落差別が日本の社会構造と、そこに生きる個人によって維持されている中で、私たちは次のような教会をめざします。

- ① 部落差別を拒否し、部落差別に負けない個人を育む教会。
 - ② 部落外に生まれたことや被差別部落に生まれたことをそのまま受けいれ合う人と人とのつながりを育む教会。
 - ③ 地域社会の中で部落差別に苦しめられている人々が集うことができ、信頼される教会。
 - ④ 地域の社会の中で部落解放の意思表示をする教会。
- 4 部落外、被差別部落の両者が共に部落差別問題を担う
 - 5 部落外の人と被差別部落の人の相互理解を育む
 - 6 信徒と教師の両者による取り組みをめざす
 - 7 「部落解放・教会の解放・『わたし』の解放」をめざす

『教憲教規および諸規則』掲載の全文をぜひご一読ください。

《 聖書箇所 の例 》

創世記 3:1-24

主なる神が造られた野の生き物のうちで、最も賢いのは蛇であった。蛇は女に言った。…

出エジプト記 1:1-21

ヤコブと共に一家を挙げてエジプトへ下ったイスラエルの子らの名前は…

レビ記 3:1-17

奉納者が献げ物とする牛の頭に手を置き、臨在の幕屋の入り口で屠ると…

レビ記 19:18

復讐してはならない。…

ネヘミヤ記 13:23-31

またそのころ、ユダの人々がアシュドド人やアンモン人やモアブ人の女と…

イザヤ書 56:1-8

主はこう言われる。正義を守り、恵みの業を行え。…

イザヤ書 61:1

主はわたしに油を注ぎ…

エレミヤ書 9:1-8

荒れ野に旅人の宿を見いだせるものなら、わたしはこの民を捨て彼らを離れ去るであろう。…

マタイによる福音書 6:25-34

「だから言うておく。自分の命のことで何を食べようか何を飲もうかと…

マタイによる福音書 21:28-32

…はっきり言うておく。徴税人や娼婦たちの方が、あなたたちより先に神の国に入るだろう。…

マルコによる福音書 2:13-17

…そして通りがかりに、アルファイの子レビが収税所に座っているのを見かけて…

マルコによる福音書 6:1-6

イエスはそこを去って故郷にお帰りになったが、…

マルコによる福音書 14:3-9

…この人のしたことも記念として語り伝えられるだろう。

ルカによる福音書 8:26-39

一行は、ガリラヤの向こう岸にあるゲラサ人の地方に着いた。イエスが陸に上がられると…

ルカによる福音書 15:1-7

徴税人や罪人が皆、話を聞こうとしてイエスに近寄って来た。すると、ファリサイ派の…

ルカによる福音書 17:11-19

…ある村に入ると、重い皮膚病を患っている十人の人が出迎え、遠くの方に立ち止まったまま…

ヨハネによる福音書 4:43-54

二日後、イエスはそこを出発して、ガリラヤへ行かれた。…

使徒言行録 9:36-43

…ペトロはしばらくの間、ヤッファで皮なめし職人のシモンという人の家に滞在した。

使徒言行録 13:13-25

…イスラエルの人たち、ならびに神を畏れる方々、聞いてください。…

ローマの信徒への手紙 5:12-21

このようなわけで、一人の人によって罪が世に入り、罪によって死が入り込んだように…

ガラテヤの信徒への手紙 3:28

そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、…



イラスト 桂川潤

《 リタニーの例 》

1)

司会者 ^{うま} 生れたところで ^{さべつ} 差別するわたしたちがいます。
みんな でも、みんな ^{たいせつ} 大切なひとりひとり。
司会者 ^{びょうき} 病気やしょうがいによって ^{さべつ} 差別するわたしたちがいます。
みんな でも、みんな ^{たいせつ} 大切なひとりひとり。
司会者 イエスさまは、^{さべつ} 差別された ^{ひとびと} 人々といっしょにご飯を ^{ほん た} 食べました。
みんな だから、みんな ^{たいせつ} 大切なひとりひとり。
司会者 イエスさまは、^{びょうき} 病気に ^{くる} 苦しむ ^{ひとびと} 人々を ^だ ぎゅーっと抱きしめられました。
みんな だから、みんな ^{たいせつ} 大切なひとりひとり。
司会者 わたしたちを ^{つく} 造られた ^{かみさま} 神様が ^い 言われます
全 員 ^{ぜん いん} みんな ^{たいせつ} 大切なひとりひとり。アーメン。

※ このリタニーは、第 10 回部落解放全国会議の分科会（「部落解放祈りの日」式文を作ろう）にて参加者によって作成されました。子どもと一緒に祈ることを主眼にしています。「差別」を「仲間はずれ」と変換することも提案されました。

2)

司会者：「部落解放祈りの日」にあって、私たちはあなたの前で、共に祈りを合わせます。
会 衆：主よ、私たちの心を開き、あなたにつながってください。
司会者：あなたは、「光あれ！」という言葉をもってこの世界を創り、「見よ、それは極めて良かった！」と、一つ一つのいのちを祝福されました。
会 衆：主よ、私たちの心を照らし、その思いを分かち合う者とさせてください。
司会者：私たちが生きる社会には、そして私たち自身の心の中には、今も多くの差別が存在しています。
会 衆：主よ、私たちの心をただし、あらゆる差別から解き放ってください。
司会者：他者の痛みに関心を閉ざし、苦しむ誰かを遠ざけてしまう弱さと頑なさを、私たちは誰も持っています。
会 衆：主よ、私たちの心を広げ、新たに創り変えてください。
司会者：あなたは今も、差別の痛みを苦しむ一人一人と共にあり、解放の御業を続けておられます。
会 衆：主よ、私たちの心を励まし、その御業に連なる者とさせてください。

司会者：私たちはこれからも、あなたと共に、イエスとともに、解放への旅路を歩み続けます。

会衆：主よ、私たちの心を、あなたの「熱」と「光」で満たしてください。

一同：荊冠の主イエス・キリストの御名によって、祈ります。

※このリタニーは、2021 年度に行った「部落解放センター設立 40 周年記念礼拝」で用いたものを基に作成しました。

《 讃美歌の例 》

- ひとつぶのからし種のように（讃美歌 21-199）
- 心を一つに（讃美歌 21-393）
- キリストの腕は（讃美歌 21-413）
- 神の民は（讃美歌 21-416）
- さあ、共に生きよう（讃美歌 21-419）
- ウリエイウツソン（となり人はだれでしょう）（讃美歌 21-421、改訂版こどもさんびか 108）
- 美しい大地は（讃美歌 21-424）
- こすずめも、くじらも（讃美歌 21-425、改訂版こどもさんびか 113）
- はかりも知れない（讃美歌 21-442）
- 気づかせてください（讃美歌 21-444）
- 飢えている人と（讃美歌 21-486）
- 勝利をのぞみ（讃美歌 21-471、讃美歌第二編 164）
- 歩ませてください（讃美歌 21-505）
- 主の招く声が（讃美歌 21-516）
- 主が受け入れてくださるから（讃美歌 21-542）
- 主イエスにおいては（讃美歌 21-560、讃美歌 419）
- 諸民族、諸国、世界の主よ（讃美歌 21-562）
- ここに私はいます（讃美歌 21-563）

《 推薦図書 》

『走れキャラバン 部落解放 1 万 2000 キロの旅』藤本真・谷本一広・角樋平一・小柳伸顕著
(日本基督教団出版局, 1993 年)

部落解放を肉声で訴えるため 82 日間日本一周。600 教会を訪れ、2500 人の人々と出会ったキャラバン隊の涙と笑いの報告。

『人間に光あれ 部落解放へのメッセージ』教団部落解放センター編 (2014 年)

教団部落解放の働きの中から生み出された説教集。

『Buraku Liberation~Let Light Shine On All Of Humanity~』教団部落解放センター編
(2015 年)

『人間に光あれ 部落解放へのメッセージ』英語版。

『部落の歴史像 ー東日本から起源と社会的性格を探るー』藤沢靖介著 (解放出版社, 2001 年)

『これでわかった! 部落の歴史』上杉聰著 (解放出版社, 2004 年)

『狭山事件の真実』鎌田慧著 (岩波現代文庫, 2010)

『知っていますか? 同和問題一問一答 第 3 版』奥田均編 (解放出版社, 2013 年)

『18 歳から考える人権』宍戸常寿編 (法律文化社, 2015 年)

『部落解放を考える~差別の現在と解放への探求』友永健三著 (解放出版社, 2015 年)

『入門 被差別部落の歴史』寺木伸明・黒川みどり著 (解放出版社, 2016 年)

『結婚差別の社会学』齋藤直子著 (勁草書房, 2017 年)

『東日本の部落史~Ⅰ関東編・Ⅱ東北・甲信越編・Ⅲ身分・生業・文化編~』東日本部落研究所編
(現代書館, 2017 年)

『ガイドブック部落差別解消推進法』奥田均編著 (解放出版社, 2017 年)

『全国水平社 1922-1942 差別と解放の苦悩』朝治武著 (筑摩書房, 2022 年)

『大阪の部落解放運動 100 年の歴史と展望』部落解放同盟大阪府連合会 (解放出版社, 2022 年)

『部落の私たちがリモートで好き勝手にしゃべってみた。』部落解放・人権研究所編・上川多実・
武田緑・藤本真帆・三木幸美・本江優子共著 (解放出版社, 2022 年)

『「私のはなし 部落のはなし」の話』満若勇咲著 (中央公論新社, 2023 年)

『いま、部落問題を語る 新たな出会いを求めて』山本栄子・山本崇記著 (生活書院, 2019 年)

『被差別部落に生まれて 石川一雄が語る差別事件』黒川みどり著 (岩波書店, 2023 年)

『全国のあいつぐ差別事件 ○○年度版』部落解放・人権政策確立要求中央実行委員会

全国水平社創立宣言 (旧字体、旧仮名遣いを一部変えています。)

ぜんこく さんざい わ とくしゅぶらくみん だんけつ
全国に散在する吾が特殊部落民(注1)よ團結せよ。
なが あいだいじ き きょうだい(注2) かこはんせいきかん しゅじゅ ほうほう おお ひとびと
長い間虐められて来た兄弟よ、過去半世紀間に種々なる方法と、多くの人々によって
われら た うんどう なんら ありがた こうか もた じじつ それら われわれ
なされた吾等の爲めの運動が、何等の有難い効果を齎らさなかつた事實は、夫等のすべてが吾々
によって、又他の人々によって毎に人間を冒瀆されて来た罰であったのだ。そしてこれ等の
にんげん いたわ ごと うんどう おお きょうだい(注2) だらく こと おも このさいわれら
人間を勤るかの如き運動は、かえて多くの兄弟を墮落させた事を想えば、此際吾等
うち にんげん そんけい こと みずか かいほう もの しゅうだんうんどう おこ おし おし
の中より人間を尊敬する事によって自ら解放せんとする者の集團運動を起せるは、寧ろ
ひつぜん
必然である。

きょうだい(注2) われわれ そせん じゅう びょうどう かつごうしゃ じっこうしゃ ろうれつ かいきゅう
兄弟よ、吾々の祖先は自由、平等の渴仰者であり、實行者であった。陋劣なる階級
せいさく ぎせいしゃ おとこ さんぎょうてきじゅんきょうしゃ かわは ほうしゅう
政策の犠牲者であり男らしき(注2)産業的殉教者であったのだ。ケモノの皮剥ぐ報酬と
なまなま にんげん かわ は と しんぞう さ だいか あたか にんげん しんぞう
して、生々しき人間の皮を剥ぎ取られ、ケモノの心臓を裂く代償として、暖い人間の心臓を
ひきさ くだ ちようしゅう つば は のろ よ あくむ ほこ
引裂かれ、そこへ下らない嘲笑の唾まで吐きかけられた呪われの夜の悪夢のうちにも、なお誇
う にんげん ち か われわれ ち う にんげん しみ
り得る人間の血は、涸れずにあった。そうだ、そして吾々は、この血を享けて人間が神にかわ
ろうとする時代におうたのだ(注3)。犠牲者とその烙印を投げ返す時が来たのだ。殉教者が、
けいかん しゆくぶく と き き
その荊冠を祝福される時が来たのだ。

われわれ
吾々がエタ(注4)である事を誇り得る時が来たのだ。
われわれ ひくつ ことば きょうだ こうい そせん はずか にんげん ほうとく
吾々は、かならず卑屈なる言葉と怯懦なる行爲によって、祖先を辱しめ、人間を冒瀆しては
ならぬ。そうして人の世の冷たさが、何んなに冷たいか、人間を勤る事が何んであるかをよく
し い われわれ こころ じんせい ねつ ひかり がんぐらいさん
知ってある吾々は、心から人生の熱と光を願求禮讃するものである。

すいへいしゃ うま
水平社は、かくして生れた。
ひと よ ねつ にんげん ひかり
人の世に熱あれ、人間に光あれ。

1922年3月3日 全国水平社創立大会

※「水平社宣言」についての注

注1 特殊部落民という言葉は被差別部落に対する歴史的社会的差別語です。水平社の人々はこれをプラスの言葉とすべく、あえて用いたと考えられます。

注2 性差別についての問題意識が希薄であったための表現であると思われます。

注3 これについては諸説がありますが、部落差別による蔑視をはね返す決意として受けとめたいと思います。

注4 「エタ」という言葉も被差別部落に対する歴史的、社会的差別語です「特殊部落民」と同様にプラスの言葉とすべく、あえて用いたと考えられます。